

# 学校における道徳教育の基本的な考え方

## 1 子どもを取り巻く現状と道徳教育

### (1) 子どもを取り巻く現状

今日、我が国では少子・高齢化が進むとともに、情報化や消費経済の進展が加速度的に進んでいる。そうした中で、価値観の多様化とともに、社会全体のモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘されている。

子どもたちの状況は、

大勢で遊ぶことや友人と語り合う、他人と協力し合うといった機会の減少により、社会性が十分育たず、自己表現力やコミュニケーション能力が低い対人関係を築けない、また、子ども自身が様々な悩みやストレスを抱え問題行動を引き起こしてしまう、などといった状況が見られる。

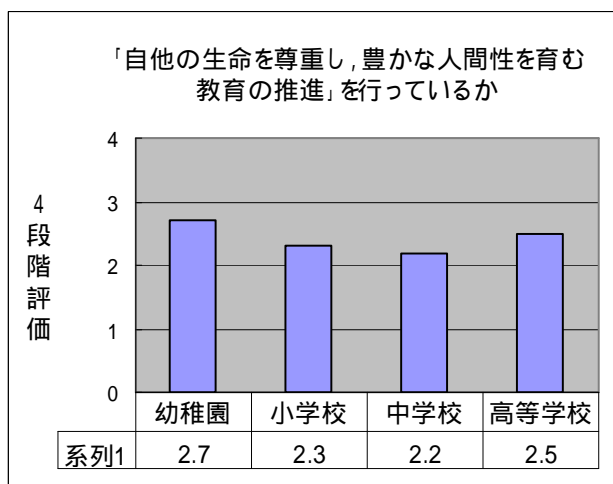
家庭の状況は、

親自身の社会性が欠如していたり、過保護や過干渉、放任や虐待といった家庭の機能を失った状況が見られたり、また、基本的な生活習慣や社会におけるマナー、善悪の判断や思いやりなど、本来、家庭で身に付けさせるべき事柄がきちんとしてつけられていないなど、家庭の教育力の低下などが認められる。

### (2) 函館市の子どもの実態（「函館市の学校教育推進の指針」（「アプローチ」から）

昨年度実施した「函館市の学校教育推進の指針」の推進状況調査において、「『優しさをもって生きる子ども』の教育（自他の生命を尊重し、豊かな人間性をはぐくむ教育）が推進されているか」という項目の回答は、5段階評価で小学校 2.3、中学校 2.2 という結果であり、函館市における道徳教育の推進が今後の重要な課題ととらえられる。

こうした課題の解決に向けては、



「道徳の時間」とその他教科等の関連を図った指導の工夫

「心のノート」の活用

中学校では、地域の特性を生かした資料の作成や効果的活用

など、より実効性のある道徳教育の推進が求められている。さらに、本市では生徒指導上の様々な問題も指摘されている。

これらの状況から、函館市の学校教育においては、子どもたちに豊かな人間性や社会性を基

盤として、主体的に判断し、よりよく生きようとする力など、「生きる力」の育成に、一層取り組んでいく必要がある。

## 2 豊かな人間性や社会性の育成と道德教育

### (1) 「生きる力」の核となる豊かな人間性

「生きる力」とは、変化の激しいこれからの社会で、他者と協調しつつ自ら課題を見つけ、自ら考え、意欲をもって行動し、よりよく問題を解決できる力であり、「豊かな人間性」はそのための核となる重要な要素である。学習指導要領解説「道德編」では、「豊かな人間性」について次のように説明している。

「豊かな人間性」とは,,,,,

美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性  
正義感や公正さを重んじる心  
生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観  
他人を思いやる心や社会貢献の精神  
自立心、自己抑制力、責任感  
他者との共生や異質なものへの寛容 など

心に響く道德教育の推進によって培われる感性や心、  
道德的価値

### (2) 子どもの道德性を育てる

学習指導要領「第3章 道德」の目標では、「道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養う」となっているが、道德性は、次のようなものと捉えられる。

#### 道德教育で育てる道德性

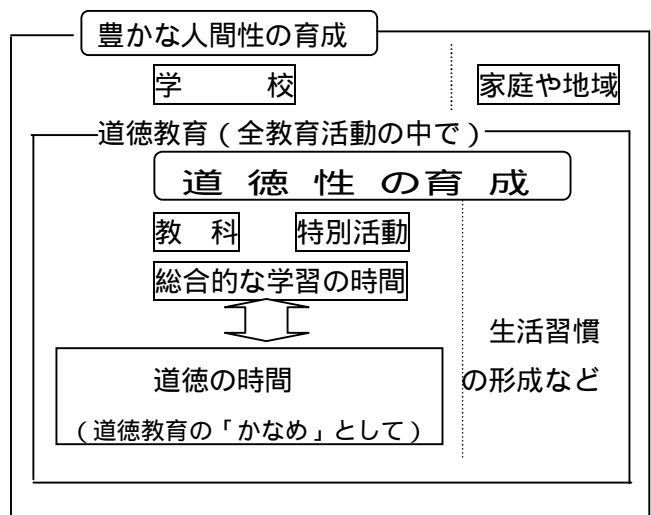
道德的心情・・・道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情  
道德的判断力・・・それぞれの場面において、善悪を判断する能力  
道德の実践意欲・態度・・・道德的心情や道德的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性  
道德的習慣・・・長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい  
日常的行動の在り方

### (3) 学校教育全体で行われる道德教育

道德教育において、たとえば「生命尊重」を指導する場合、各教科や特別活動、総合的な学習の時間などで命の大切さに触れながら、道德の時間で、じっくり考えさせることにより、子どもの道德性が深められる。

このように、子どもの道德性をはぐくむためには、道德教育の趣旨を理解し、子どもの道德性の実態を把握しながら、学校教育全体を通じて計画的に指導を行わなければならない。

#### < 豊かな人間性の育成と道德教育 >



#### (4) 道徳教育のかなめとしての「道徳の時間」

学校で行われる道徳教育において、重要な役割を果たすのが「道徳の時間」であり、各教育活動において行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合する時間であり、子ども一人一人が自分を見つめ、道徳的価値の自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。

「道徳の時間」が道徳教育全体を補充・深化・統合するとは、,,,,,,

##### 補充する

学校の教育活動では十分考える機会が得られない道徳的価値などについて「補充」する。

##### 深化する

道徳的価値についての自覚が不十分な場合、もう少しじっくり考えさせる機会をもち、「深まり」をもたせる。

##### 統合する

多様な道徳的体験をしているのに、その意味や価値の関連を考えないまま過ごしている場合、立ち止まってじっくり考えることにより、それらを「統合」し、子どもの中に新たな感じ方、考え方を生み出す。

#### 道徳的実践力とは

人間としてよりよく生きていく力。主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するもの

### 3 道徳教育改善のポイント

道徳教育がより効果を上げるためには、学校が道徳教育の目標をとらえた確かなプランを作成するとともに、指導の重点を明確にし、全教職員の共通認識の下、取り組むことが大切である。

#### 豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進

- ・道徳の時間の指導の在り方を押さえて指導する
- ・魅力的な道徳資料の開発や活用を進める
- ・道徳の時間に多様な体験活動などを生かす
- ・各教科等においても生き方を実感できるようにする
- ・校長を中心とした学校の指導体制を充実する

#### 開かれた道徳教育の展開

- ・家庭や地域の人々の参加・協力を求める
- ・学校間（近隣学校や異校種など）の多様な交流を促進する
- ・地域の特色を生かした体験活動を進める

## 【道徳教育の充実により】

### 子どもや学級が変わる

- ・自分自身について深く見つめるようになる
- ・自分のよいところをさらに伸ばそうとするようになる
- ・自分らしい生き方について深く考えるようになる
- ・美しいものを、生命あるものを大切にようになる
- ・豊かな人間関係を自分から築こうとするようになる。
- ・進んで道徳的実践を行うようになる

### 教師や学校が変わる

#### 教師は・・・

- ・子どもの成長を見守るゆとりが出てくる
- ・子どもの心を受け止める道徳の授業の展開ができるようになる
- ・子どもを多面的に理解できるようになる

#### 学校は・・・

- ・子どもにとってより温かい居場所となる
- ・子どもの心の問題について、教職員間に共通の関心が生まれてくる

### 家庭や地域が変わる

- ・学校の道徳教育へのより深い理解が得られる
- ・地域の教育活動への様々な協力が得られる
- ・地域社会が豊かな体験の場となる
- ・家庭や地域の教育力が高まる

## 4 学校教育における道徳教育の具体的な進め方

### (1) 道徳教育の目標をとらえた確かなプランをつくる

道徳教育は、学校の道徳教育の全体計画と道徳教育のなめとしての道徳の時間の年間指導計画に基づきながら展開される。

道徳教育の計画の作成に当たっては、子どもや保護者、地域社会の実態や願いを的確に把握しながら、以下の観点で全体計画や指導計画を整備・再点検、評価し、柔軟に修正を加えていくことが大切である。また、道徳教育の具現化を一層図るため、学級経営の基盤となる学級における指導計画の作成も重要である。

#### 道徳教育を充実させる3つの計画

##### 道徳教育の全体計画

学校の教育目標と明確に関連付ける  
学年ごとの指導の重点を設定する  
学校や地域の特色から重点化を図る  
「心のノート」の学校としての生かし方を示す

全教育活動での取組の方向を示す  
道徳の時間の役割を明確にする  
協力、連携体制を明確にする

##### 道徳の時間の年間指導計画

学年の発達段階や実態を踏まえ、子どもの心に響く主題配列を工夫する  
関連的、発展的な指導を工夫する  
豊かな体験活動を生かす工夫をする

重点的な指導を工夫する  
子どもの具体的な課題を取り上げる

##### 学級における指導計画

学校全体の道徳教育の具体化を図る  
学級担任それぞれのモチ味を生かす  
「心のノート」の生かし方を示す

子どもや教師の願いを反映させる  
体験活動等を位置付ける

## (2) 子どもの心に響く、魅力ある「道徳の時間」をつくる

子どもの心に響く「道徳の時間」を実践するためには、まず教師自身が「道徳の時間」をやりがいのある時間として、その価値や手ごたえを感じられるようになることが重要である。そのためには、子どもの実態を見据えたプランづくりを進めるとともに、多様な体験活動を生かすなど、魅力ある「道徳の時間」を創造することが大切である。

### 子どもの心に響く、魅力ある「道徳の時間」をつくるポイント

子どもの悩みや心の揺れを捉える  
心に響く多様な資料を選び、開発する  
資料の生かし方を工夫する  
学習活動を工夫する  
学習の場を工夫する  
指導する時間を弾力的に考える  
学習集団を多様にする  
指導体制の充実を図る

など

## (3) 各教科・特別活動・総合的な学習の時間における道徳の授業との関連

子どもは各教科や特別活動、総合的な学習の時間の中で常に多様な発見や学びをしている。また、それらの目標や内容には道徳性の育成にかかわる部分が多い。総合的な学習の時間でねらいとする「自己の生き方を考える力」は、子どもが自分らしさや、自己の成長を確かめる力でもある。

そこで、これらの学習と道徳の時間との関連を図る指導によって、子どもが自分自身の生き方の問題として自覚し、また、道徳の時間で深められた道徳的価値が、教科等の学習や日常の様々な場で実践されることが期待される。

## (4) 家庭や地域社会との連携を生かした道徳教育を進める

道徳教育は、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、一貫した方針を保ちながら、子どもの道徳性が豊かにはぐくまれるよう努める必要がある。そのような中、学校は教育の専門機関として、道徳教育の意義についての啓発活動を推進することが大切である。

### 家庭や地域社会との連携を図った道徳教育を推進するためのポイント

#### 共通理解を図る

学校としてのビジョンの提示

「心のノート」の活用

「道徳の時間」の地域への公開

学校通信、学年・学級通信等による道徳的な話題の提供

#### 連携を深めるしくみづくり

町会、ボランティアグループ等、地域の多様な組織を生かした教育力の活用

地域懇談会などの組織づくり

学校の教育活動に常に協力が得られるシステムづくり

### 多様な連携の工夫

子どもの心と触れ合い，語り合う場をつくる

地域行事への参加等，地域の特色を生かした活動を工夫する

P T Aなどの組織の活用等，家庭や地域と連携して行う活動を工夫する

## ( 5 ) 子どもの実態を把握して指導に生かす道徳教育の評価を行う

道徳教育における評価は，教師が子どもの人間的な成長を見守り，より良く生きようとする努力を評価し，勇気づけるものでなければならない。それは数値的な評価の対象とされるものではなく，教師と子どもの温かな触れ合いやカウンセリングマインドに基づき，共感的に行われるべきものである。

道徳教育の評価の対象は，「子どもについての評価」と教師の「指導や計画の評価」の二つに分けられる。また，評価の場面としては「道徳の時間における評価」と学校の教育活動全体で行う「道徳教育の評価」に分けられる。

### 道徳教育における評価の留意点

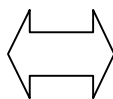
- ・ 子ども理解を深め，子どもがよりよい生き方を求めるような評価
- ・ 子どもが自分の心の成長を確認できる「道徳の時間」の評価
- ・ 子ども心の成長を確かめ，道徳教育をより充実させる評価

## ( 6 ) 道徳教育を推進するための研修の充実を図る

道徳教育は学校全体で行うものであり，教師にとっては，日常の指導や学級経営，授業，専科の経営等がすべてにかかわっている。教師自身が実践的な指導力を高めるために，道徳の時間や体験活動の充実を目指した研修を積み重ねることが大切である。

### 道徳教育の研修を充実させるための留意点

教師が必要感や課題意識をもつ  
常に子どもの実態から出発し，還元する  
全教師で組織的に行う  
研修を体系化し，他の研修と関連を図る  
記録，評価を行い，研修の改善を図る  
他校との研修交流を行う



### 道徳教育・道徳の時間の研修方法例

- ・ 校内における授業研究
- ・ 参観日等での授業公開
- ・ 指導者を招いての講話
- ・ 道徳の授業の事例等の研修
- ・ 研究会への参加・発表



### (7) 心のノートの活用を図る

「心のノート」は、子どもが身に付ける道德性の内容をわかりやすく表したものであり、自らの生き方について考え、自ら道德性をはぐくむことができるように作成されている。

また、家庭や地域社会が連携して子どもの道德性をはぐくむための「心のガイドブック」としての活用も考えられる。「心のノート」は、いつでも、どこでも、そして何度でも、を合言葉に教育活動の様々な場面で活用を図りたい。

#### 「心のノート」を生かすポイント

- (1) 教職員が心のノートの内容を理解し、使用に関する共通理解を図ること
- (2) 道德の時間以外の、様々な場面での利用・活用を充実させること
- (3) 家庭・地域社会と連携した活用を図ること
- (4) 心のノートを通じて子ども一人一人とかわかり、教師が子どもに寄り添う配慮をすること

### 子どもの道德性にかかわる意識や実態を把握する

子どもの道德的な実態を把握し、その人間的な成長を促す評価は、子どもの道德性を高める上で重要な評価である。現在、喫緊の課題である「生命尊重」、「命の大切さ」、「生命に対する畏敬の念」などの心を育てる上でも、子どもの道德性の意識や実態を把握し、道德の指導に生かしていきたい。

#### 子どもの道德性にかかわる実態を把握する例

##### 【自己存在感】

学校に行くのが楽しいです。(充実感)

勉強の後「よくがんばった」と思います。(充実感)

私は、学級の友人のために、役立っていると思います。(有用感)

学級には、私がうまくできたとき、いっしょに喜んでくれる友人がいます。(所属感)

私が学級で休んだら、学級の人、心配してくれると思います。(所属感)

学級の人、私が発表したとき、いつもしっかり聞いてくれます。(社会的承認)

##### 【共感性】

ひとりぼっちでみている友人を見ると、声をかけたくなります。(感情認知)

けがをしている友人を見ると、心配になります。(感情認知)

苦手なことの練習をしている友人を見て、よくがんばっているなと思います。(情動の受容)

